

# 愛、知、和

No 6 平成 29 年 12 月 18 日  
発行 大宮開成中学・高等学校  
生徒指導部

## 21世紀を担う調和のとれた人間教育

### ～『こころと街のバリアフリーを目指して』～

#### 1、講師紹介 高橋 俊一郎（たかはし しゅんいちろう）氏

高崎車椅子バスケットボールチーム（群馬マジック）結成、現在はチーム代表を務める。一般社団法人関東車椅子バスケットボール連盟代表理事、群馬県社会福祉協議会ボランティア専門委員など、仕事のかたわら多くの地域活動においても貢献されている。また、現在は全国各地で講演活動を行い、福祉とボランティア活動と生きることの大切さを呼びかけている。

#### 2、講演内容

2020年東京オリンピック・パラリンピックが決定し、障がい者スポーツを取り巻く環境や街づくり、施設のバリアフリー化も進んできました。しかし、真のバリアをなくすためには、心の中のバリアを取り払う必要があります。そこで、福祉と人権をテーマに、高橋さんが経験されてきた車椅子バスケットボールの話をもじえた講演会を通し、福祉の重要性と、人と人との関わりにおいて感謝する気持ちを持つことの大切さを伝えていただきました。また、どんな困難な状況でも生きることやあきらめないことを講演していただきました。



#### 3、生徒の感想文より

- ・私は高橋さんのことを助けたクラスメイトたちの話を聞いて、とても心が温まりました。高橋さんも、身体が不自由になったばかりは不安だったと思うけれど、こうした友達がいて支えられたのだとおっしゃっていて、それは街にいる障がいを持っている方も同じだと思うので、困っている人がいたら積極的に自分に何かできることはないかを聞きたいと思いました。これからはもっと障がい者スポーツに触れて身近なものにしたいです。最後に、中学生の女の子が言った「一生懸命でかっこいい」という言葉が心に残りました。私もそう言ってもらえるように頑張りたいです。
- ・高橋さんのお話を聞いて、普段当たり前のようにできることができないということがどれだけつらいことなのかということをととても考えさせられました。私は小学生の時にアイマスクをつけて歩いたり、車いすを体験する授業があったのですが、その授業を受けて、目が見えないのはとても暗くて怖かったし、身体が思い通りに動かないというのもとても辛かったです。その時の記憶と今回の講演を通じて、私たちは身体が不自由な人たちのために何ができるのかを改めて考えなければならないと、とても強く思いました。
- ・今日の高橋さんの話を聞いて、たくさんのことを考えさせられました。自分の将来の夢である看護師が一人の命を救ったという話を聞き、私もそういう存在になりたいと思いました。高橋さんが高校生の時に起きた事故で身体が不自由になって大変なこともあったにも関わらず、前を向いていろいろなことを前向きに考えたり、学校に車いすで行ったり、バスケットボールを始めてみたりするなどの挑戦もしていて、私も小さなことであきらめないで頑張ろうと思いました。お話を聞かせてくださり、ありがとうございました。
- ・私の父も片足を切断した障がい者の1人です。原因は交通事故だったのですが、父自身足を失くしてから病院生活はすごく苦しんでいて、これからの不安もあったと思い、高橋さんと同じで死にたいという気持ちを抱いたのではないかと思います。それでも弱い姿を見せない高橋さんや私の父に対して強く尊敬の気持ちしかありません。また、高橋さんの障がい者に対する環境づくりは本当に障がい者の方にとって、とても救いになっていると思います。自分の障がいのことを人前で話す勇気は私にはありません。それでも自分を知ってもらおうという高橋さんを本当にすごいと思います。
- ・この講演会を通して今までより障がい者の方々の思いを知ることができました。私の身近には障がいがある方がいないため、少し遠い存在のように感じていました。しかし、高校生の時に事故を経験されたということを知り、今までよりも身近な感じられました。しかしながら、私たちは障がいを本当に経験したわけではないので、まだまだ理解できていない事もあると思います。そのような不安な気持ちに少しでも寄り添えるように私は「あいさつ」など小さなことから始めてみようと思います。

